

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日: 2022年9月18日

所属学部／研究科・学科／専攻	農学部食料環境政策学科
留学先国	アメリカ
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: カリフォルニア州立大学バークレー校 現地言語: English
留学期間	2022年5月～2022年8月
留学した時の学年	4年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	なし 年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2022年8月23日
明治大学卒業予定年	2024年3月
留学先大学について	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:秋学期:8月～12月 2学期:1月～5月 3学期:サマーセッション:セッション A(前半)5/23～セッション D(後半)～8/12 4学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	41910人
創立年	1868年

留学費用項目	現地通貨 (\$)	円	備考
授業料	6,213	733,900円	1単位=\$570 学生 VISA 要件のために最低10単位履修する必要があります。
宿舍費	5,174.93	688,539円	International House オンキャンパス・食事つき
食費		35,000円	お菓子・外食費
図書費	89.53	12,212円	
学用品費	197.25	27,243円	
携帯・インターネット費	47.19	6,176円	入学手続きをしたあと大学からメールで SIM カードの案内が来るので、それを契約しました
現地交通費	59.94	8,128円	(<input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	73.55	10,245円	
被服費		5,747円	IHouse 洗濯乾燥機代
医療費	30	4,050円	
保険費		45,495円	形態:明大サポート
渡航旅費		152,600円	行き帰り別々に購入したので高くなっています。成田-ロサンゼルスだと安くなります。
ビザ申請費		65,480円	
雑費		35,000円	
その他		円	
その他		円	
合計	11,885.39	1,839,815円	当時は1ドル135円～139円台でした。

渡航関連

渡航経路
往路 出発地:成田 目的地:サンフランシスコ(アメリカ) 経由地:仁川(韓国) 復路 出発地:ロサンゼルス(アメリカ) 目的地:成田 経由地:なし
渡航費用
①往復チケットを購入した場合 航空会社: _____ 料金: _____ ②片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社:アジアナ航空 料金:¥88,070 復路 航空会社:ユナイテッド航空 料金:¥64,590 ∴合計:¥152,660
航空券購入方法
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名: _____) <input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名:Skyscanner, Expedia) <input type="checkbox"/> その他(_____)

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート, 大学の宿舎など)
<input checked="" type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前:International House) <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ
2)部屋の形態
<input type="checkbox"/> 個室 <input checked="" type="checkbox"/> 相部屋(同居人数 2)
3)共有部分
<input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> キッチン(<input type="checkbox"/> 自炊可 <input checked="" type="checkbox"/> 自炊不可)
4)住居を探した方法:
UC Berkeley 大学公式サイト の Housing のページから。
5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)
同じサマーだけの留学生が多いので、交友関係を広めることに積極的な人が多数です。コーヒアワーという毎週水曜日の親睦イベントがあります。私たちは Japanese Coffee Hour をホストしました。IHouse には、フランス、チリ、韓国、アメリカ・オハイオ州など・・・本当に世界中から優秀な学生さんが集まります。こんな出会いの機会はないです。IHouse を選ぶ方には、なるべくたくさんの方と交流して、連絡先を交換することをおすすめします。また、食事は毎回米が出ます。とはいっても、日本米ではなくタイ米ですが、これらは、他の寮にはない良いところです。 次が、良くなかったところです。私のいた部屋はとんでもなく狭かったです。部屋の質に関しては不平等を感じました。例えば、同じ値段のダブルの部屋でも二段ベッドのところと、一段ベッドが二つのところがありました。毎年明治の学生はここにいるようですが、co-op など、他の寮にするのもいい選択肢だと思います。

現地情報

1)留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例:現地の病院, 学内の診療所)
<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり(治療を受けた場所:University Health Service)
2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。(例:留学先大学の相談窓口, 現地の友人等)
<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり(問題の内容や相談した人等: _____)
3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか?その際どのように対処しましたか?
大学からの事件発生お知らせメール。暗くなってから(20時以降)一人で出歩かない
4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)
寮のインターネットは問題なく使えます。携帯電話は、サマーセッション登録後に UC Berkeley Admission から来たメールでおすすめされた Mint Mobile を使用しました。
5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)
クレジットカードで事足ります。現金は割り勘用に使っていました。 クレジットカードを3枚、デビット/キャッシュカードを1枚持っていきました。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

・国際免許証。身分を証明する公的書類が日本人だとパスポートになりますが、かさばるし、あまり持ち歩きたくないものです。運転しなくても、国際免許証を日本で作って行って、身分証にすればよかったです。

・歯ブラシ。サイズがUS サイズのものばかりでした。

・解熱剤・お腹の薬・風邪薬など常備薬。しんどい時に一人でドラッグストアに行ったり、診察を受けて薬をもらってくるのはきついです。

7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

渡航前というFlywireという海外送金サービスを利用して支払いました。



学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
10 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() ・履修の制限はありましたか? ない	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Negotiation and Conflict Resolutions	交渉と紛争解決
科目設置学部・研究科	Business Administration
履修期間	Session A
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義とロールプレイング(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 90 分が 3 回
担当教授	Cort Worthington
授業内容	<p>Negotiations and Conflict Resolutions is a course intended to ground students in current negotiation theory while giving them ample practical opportunities to test this theory and develop their own negotiation style. Participants become empowered to better navigate business negotiations and "real-life" interactions.</p> <p>ネゴシエーションと紛争解決は、現在のネゴシエーション理論を基礎としながら、その理論を試し、自分のネゴシエーションスタイルを確立するための十分な実践的機会を与えることを目的としたコースです。受講者は、ビジネス・ネゴシエーションや「実生活」でのやり取りをよりうまく切り抜ける力を身につけることができます。</p>
試験・課題など	出席と参加…20% 中間試験…20% 最終試験…30% グループプレゼンテーション…20% プレゼンテーションの要旨と授業の振り返り…10%
感想を自由記入	授業では、教科書で予習した交渉の理論やテクニックを、クラスでロールプレイングを通して実践しました。クラスの規模は、学生約30人に対して先生 1 人と TA1 人。先生が、教えることに情熱を持っていて学生のことをよく見ていると感じました。授業中に渡されたプリントを読む時間を長めにとっていただくなど、留学生に配慮してくれていました。



履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Field Study: Cities and Buildings		フィールドスタディー:都市と建物	
科目設置学部・研究科	Geography		
履修期間	Session A		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	フィールドワーク(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に8時間分が1回		
担当教授	Seth Lunine		
授業内容	<p>In this course you will learn how to 'read' urban landscapes in the San Francisco Bay Area. You will develop ways of seeing, interpreting, and analyzing building types, street forms, land-use patterns, and other artifacts of material culture, no matter how seemingly humble. We will walk through places of residence, work, leisure, and consumption; though both official and vernacular spaces; through global nodes and local redoubts; and through sites of investment and disinvestment, in- and out-migration, wealth and poverty, consensus and resistance. At every juncture, we will explore the multidirectional relationships between form and everyday life.</p> <p>/ このコースでは、サンフランシスコ・ベイエリアの都市景観を「読む」方法を学びます。建物のタイプ、街路の形、土地利用のパターン、その他の物質文化の成果物など、どんなに地味に見えるものでも、その見方、解釈、分析方法を身につけます。私たちは、居住、仕事、レジャー、消費の場、公的な空間と一般的な空間、グローバルな拠点とローカルな砦、投資と非投資、移住と移住、富と貧困、合意と抵抗の現場を歩いていきます。あらゆる場面で、私たちは形と日常生活の間の多方向の関係を探ります。</p>		
試験・課題など	出席と参加…50% 毎週のレポート(5回)…35% 最終レポート…15%		
感想を自由記入	社会派プラタモリのような授業。毎週金曜日 9-17 で、パークレーから離れてベイエリアのさまざまな街を歩きます。クラスの規模は、学生約 15 人に対して先生1人。お昼は、一緒にご飯を食べる機会があるため、クラスメイトと仲良くなれました。先生が教えることに熱意を持っています。授業中に質問したことについて、終了後、「こんな論文があるよ」と論文をシェアしてくれるなど、学生の興味好奇心にとことん応えてくれました。		



履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Urban Garden Ecosystem	都市農園のエコシステム
科目設置学部・研究科	Environmental Science, Policy and Management
履修期間	Session D(後半)
単位数	4
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	都市農園体験とディスカッション(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 180 分が 4 回
担当教授	Ana C. Galvis Martinez
授業内容	ESPM 117 Urban Garden Ecosystems (also known as Urban Agriculture and Food Justice) studies the production of food in urban environments using an agroecological approach. The class aims to provide a socio-ecological approach to the study of urban food production, examining the forces driving it and the ways urban agriculture can aid in the enhancement of food security, biodiversity, energy conservation, job creation, human health and well-being. The agroecological basis of vegetable and fruit production are discussed. ESPM117 アーバンガーデンエコシステムズ(別名:都市農業とフードジャスティス)は、農業生態学的アプローチを用いて、都市環境における食料生産について研究しています。このクラスは、社会生態学的なアプローチで都市の食糧生産について研究し、食糧安全保障、生物多様性、エネルギー保全、雇用創出、人間の健康と福祉を向上させるために都市農業がどのような力を発揮できるかを検討することを目的としています。野菜や果物の生産におけるアグロエコロジーの基礎について議論する。
試験・課題など	出席と参加…15% 農園の管理と日誌…15% ディスカッションリーダーシップ…30%(各 10 ポイントを 3 回) 最終レポート…40%
感想を自由記入	実際に野菜を育てながら、アグロエコロジーの考え方に基づき、コミュニティガーデンの意義と、食の主権について考えます。学生 20 人程度に対して先生 1 人と TA1 人。学生は、環境問題に関心のある人ばかりでした。授業は大学の農園で行われます。毎回農園に来て、畑のお世話をし、議論します。先生は授業での議論を大事にしています。留学生だから話せる、自国の経験や知識を共有することを歓迎してくれました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Data tools for environment and sustainability	持続可能な環境のためのデータツール
科目設置学部・研究科	
履修期間	Session D(後半)
単位数	3
本学での単位認定状況	聴講のため、単位認定なし単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義・質問対応形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 60 分が 3 か 4 回
担当教授	Dan Hammer
授業内容	This course is a practical exploration of environmental data and analysis. The objective of this first lecture is to introduce both the course structure and the way we will work with data and code. /このコースは、環境データと解析の実践的な探求である。この最初の講義の目的は、コースの構成とデータとコードの扱い方の両方を紹介することです。
試験・課題など	laboratory (6 times) 試験なし、課題(6 回)提出
感想を自由記入	Python というプログラミング言語を使って環境データ分析をしました。クラスの規模は、約 20 人の学生に対して 1 人の先生です。授業は講義形式で、都度質問を受け付けるという形式でした。授業の進度はとても速いため、理解するのがかなり難しかったです。カリフォルニア出身の英語ネイティブの学生でもきつい、と言っていました。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)
<input checked="" type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2)進路決定の際に活用したウェブサイト, 書籍, 機関など
早く自立したいので、仕事をするを選びました。
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前,あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません) ※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界, 職種等を教えてください。
環境コンサルタント、造園工事、コンサルタント、財団、環境省 など
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。 (例: 留学中の就職活動へ向けた準備, 帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。) ※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。
もう一度海外に挑戦したいと強く思いました。数年働いたあと、大学院に進学することを検討しています。
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備, 試験対策等)をお願いします。
7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備, 試験勉強, 留学中, 留学後, 特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例: 語学試験の勉強, 選考, 出願, ビザ申請・取得, 航空券購入, 予防接種, 滞在先の確保, 留学中の中間試験, 期末試験, その他イベント等

留学開始年の前年	1月～3月	期末試験
	4月～7月	卒業後の進路に悩む。留学を考え始める
	8月～9月	IELTS スコア獲得に向けて勉強
	10月～12月	トップユニバーシティ留学に応募
留学開始年	1月～3月	期末試験
	4月～7月	留学
	8月～9月	帰国
	10月～12月	卒論に取り組む
留学/帰国年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	

留学体験記

この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、留学を志す後輩学生へのアドバイスなどを自由に記入してください。

生活:

・I-house の寝具はマットレスしかありません。かけ布団が欲しくなると思うのですが、様子を見てから買った方がいいと思います。タオルケットくらいがちょうどいいと感じました。気候のイメージは、年中夏の軽井沢、毎日晴れ、という感じです。

勉強について:

・Upper division, Lower division(学部 1, 2 年生向け、学部 3, 4 年生向け)、学部学科にとらわれずやりたいことを履修するのがいいと思います。特に Upper/ Lower はクラスの難易度に関係ない印象でした。

・夏にはバークレー生以外に世界中から留学生が来ています。優秀で、学ぶこと、自分の能力を伸ばすことに一生懸命な人たちでした。かつ、しっかり遊びます。やるべきことに優先順位をつけられていて、オンとオフのメリハリがはっきりしていました。また、英語に不自由している留学生はあんまりいない印象を受けました。

・大学全体で多様性と環境に配慮していることがうかがえました。特に LGBTQ への配慮は日本にはないものでした。初回の授業で What's your pronoun? と代名詞を聞かれます。例えば、she/her, they/them など、他の人があなたを指すときに、「彼女は～」がいいのか、「彼は～」がいいのか、それとも性別を特定しないで呼んでほしいのか、自分で希望を伝える場面があります。多様な性に寛容な雰囲気を感じました。実際、生物学的な性は男性ですが、代名詞は she/her、女性らしいファッションで授業に来る学生がいました。

バークレーの学生は社会問題や環境問題を自分事としてとらえているなど感じることもありましたが、抗議活動をしたり、問題に対する意見を発信している人がよくいました。

留学のためにした準備:

英語の勉強のほかに、二つユニークな準備をしていました。一つ目は、履修する予定の先生にコンタクトをとって事前にシラバスを送ってもらうことです。先生の名前を検索してみると何かしら情報が見つかります。何を教科書にするかわかるので、授業の合う合わないを判断する材料になります。二つ目は、履修する予定の先生の論文を読んでおくこと、プロフィールや経歴を知っておくことです。論文は google scholar で検索したら出てくる場合があります。プロフィールは LinkedIn にあつたりします。先生は何に強みを持っているのか、どんな考えの持ち主なのか、うかがい知ることができます。

しておけば良かったと思う準備:

(英語で)書いたり話したりして、自分の考えを表現する準備です。授業では “Any thoughts?” とざっくり意見が求められます。そこで発言をしないことはその場にはないことと同じです。また、どんな意見であっても、たとえ間違っていたとしても発言したことは加点になります。私が授業の流れをつくって、くらの気持ちで行くくらいがちょうどいいと思います。

私は、留学を通して、(英語で)自分の考えを表現するのが苦手だということを痛感しました。そのため、帰国後の英語のアウトプットの場として、Reddit というアメリカのヤフー知恵袋 & ニュースサイトでコメントを書いたりしています。日本で普通に暮らしていると英語を使って何かをする機会はなかなかないかと思いますが、インターネットならあるので、やってみると面白いですよ。

私の留学の目的は、環境デザインを学ぶことでした。結果、私が思っていたのと少し違って、私にとっては環境経済、政策やマネジメントの方がやりたいことに近いと気づくことができました。自分の適性と、認識のギャップに気づいたとでもいえるのでしょうか。これも、大事なことだと思います。

むしろ、私は、留学そのもの、自由の国アメリカを経験したことが私に大きな影響を与えたと思います。これは、思ってもみなかった、行ってみないとわからないことでした。ゆえに、世界を知りたいとか、そのようなふわっとした動機でも行ってみればいいのではないのでしょうか。絶対、自分にプラスになると思います。英語については、そんなに心配しなくても、明治大学の入試に合格した人ならなんとかなると私は思います。ここに書ききれないこと、書けないこともあるので、ぜひ留学した先輩に話を聞くことをお勧めします。いつでも連絡お待ちしております。